1.麻疹

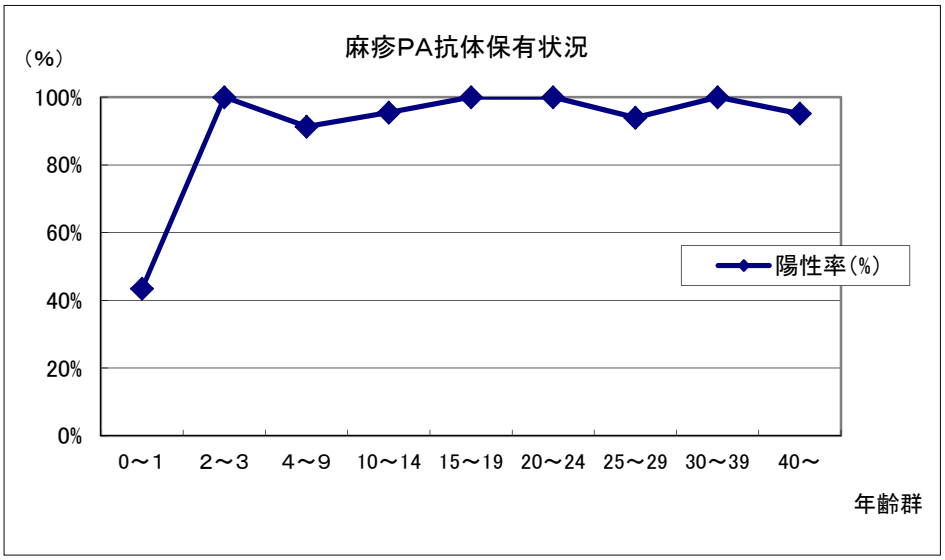
1)検体数

年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～	合計
検体数	23	23	23	22	11	13	33	53	41	242

麻疹は合計242検体についてゼラチン粒子凝集(particle agglutination:PA)にて麻疹PA抗体価を測定した。

2)麻疹PA抗体保有状況(%:PA価16倍以上陽性)

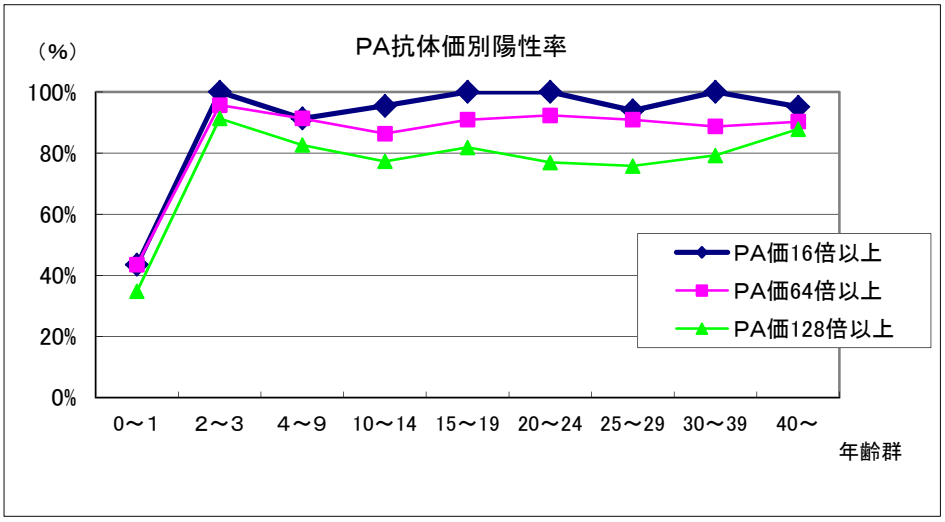
年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～
陽性率(%)	43.5%	100.0%	91.3%	95.5%	100.0%	100.0%	93.9%	100.0%	95.1%



麻疹抗体保有状況は、2～3歳、15～24歳、30～39歳の年齢群で100%であった。4～9歳、25～29歳の年齢群で陽性率が95%を下回ったが、0～1歳の年齢群以外では高い保有率を維持していた。4～9歳の年齢群では昨年度より低下していたが(昨年度は100%)、25～29歳の年齢群では上昇した(昨年度は91.3%)。

3）麻疹PA抗体価別陽性率（%）

年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～
PA価16倍以上	43.5%	100.0%	91.3%	95.5%	100.0%	100.0%	93.9%	100.0%	95.1%
PA価64倍以上	43.5%	95.7%	91.3%	86.4%	90.9%	92.3%	90.9%	88.7%	90.2%
PA価128倍以上	34.8%	91.3%	82.6%	77.3%	81.8%	76.9%	75.8%	79.2%	87.8%



抗体価は修飾麻疹を含めた発症予防可能レベルを考えるとPA価128倍以上が望まれる。平成27年度は10～24歳までの年齢群で他の年齢群より抗体価が高い傾向があり、特に15～19歳の年齢群ではPA価128倍以上が80%を超えていた。25～29歳の年齢群では抗体保有率が他の年齢群に比べ低く（93.9%）、PA価128倍以上の割合も0～1歳の年齢群を除く全ての年齢群より低い結果となった（75.8%）。

2.日本脳炎

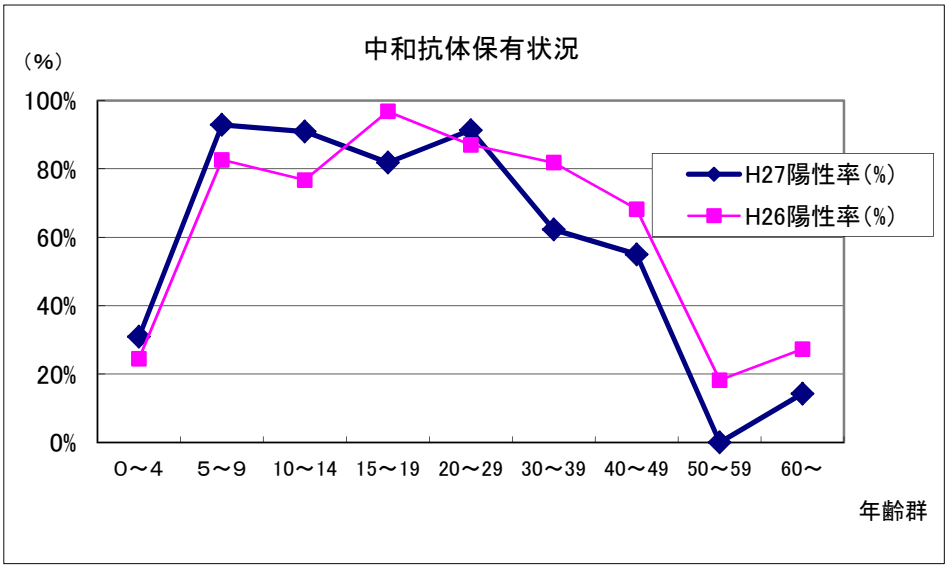
1)検体数

年齢群	0～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
検体数	55	14	22	11	46	53	20	7	14	242

日本脳炎抗体は合計242検体について中和抗体価を測定した。

2)日本脳炎中和抗体保有状況(%:中和抗体価10倍以上陽性)

年齢群	0～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～
H27陽性率(%)	30.9%	92.9%	90.9%	81.8%	91.3%	62.3%	55.0%	0.0%	14.3%



日本脳炎抗体保有状況は、5～9歳の年齢群で最も陽性率が高く92.9%で、次に20～29歳の年齢群で91.3%であった。その後なだらかに減少し、50～59歳の年齢群で0%となり、60歳以上の年齢群で上昇に転じている。今年度、5～9歳の年齢群(92.9%)で陽性率は前回(平成26年度:82.6%)より10ポイント程度、10～14歳の年齢群(90.9%)で前回(76.7%)より14ポイント上昇したが、15～19歳の年齢群(81.8%)で前回(96.8%)より15ポイント程度低下した。